



大学院看護学研究科長に就任して

大学院看護学研究科長 佐々木 順子



本年4月より研究科長の重責を担うことになりました。本学の大学院は、博士前期課程2年間と博士後期課程3年間からなります。その教育理念は、保健・医療・福祉の幅広い領域で活躍できる看護職育成という本学学部の理念を基本として、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究に携わることのできる自立した教育者・研究者を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努めることにあります。博士前期課程は平成16年4月に開設後、24人が修士（看護学）を修了しており、うち6人が専門看護師

（CNS：地域看護、小児看護、がん看護、老人看護）養成単位を取得し、老人看護専門看護師が一人誕生したところです。博士後期課程は平成18年4月に開設し、3期生まで9人が在籍しており、今年度第1期生が修了となります。

看護の役割は、様々な健康問題に派生する悲しみ・痛み・苦しみを可能な限り取り除き、人々が生きる力と喜びをもてるようになる変化の過程を援助することにあります。看護師は、対象とする人々が新たな自分に安心して変化していくことができるよう、その現象を的確に捉え、問題を予測し、専門的知識・技術・信念に基づいた看護を展開しなくてはなりません。蓄積された経験知から一般化された科学知を導き出す能力とともに、人の心に響く優しいコミュニケーション能力が必要となります。クリティカルシンキングを基本として、共に学び合う自由な気風を大切にしたいと努めます。

目次

大学院看護学研究科長に就任して	1	キャンパスライフ	
大学の主な動き		フィールド実習	6
第9回入学式	2	小児看護学実習 I	6
オープンキャンパス	2	第VI段階実習	6
開学記念行事	3	サークル活動紹介	6
「情報セキュリティ研修」とセキュリティポリシーについて	3	大学祭のお知らせ	7
平成20年度日系研修事業	4	図書館から	8
2008年度夏期アメリカ看護研修報告	4	地域ケア総合センターから	8
新任教職員紹介	5	キャンパススケジュール 2008年度後期	8
2008国際骨関節炎学会に参加して	5	編集後記	8
市バス看護大停留所設置	5		



石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

大学 看護学部看護学科
大学院 看護学研究科

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>
E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

大学の主な動き

第9回入学式

平成20年4月7日、温かく花曇りの空模様の下、第9回入学式が挙行されました。五分咲きの桜の花が共に新たな出発を祝してくれているようでありました。

学部生94名、大学院博士前期課程10名、博士後期課程1名は、杉本副知事はじめ医師会長、看護協会長、県立高松病院長、後援会長のご臨席を賜り、昨今の医療情勢や看護界の動きを交え看護職をめざした学部生、さらに高度専門職者をめざす院生への期待を込めた祝辞を頂戴しました。

恒例の写真撮影では、入学生の顔には緊張の中にも晴れがましさが見てとれました。列席されたご家族の皆さまの嬉しさは一入であったろうと思います。大学は学ぶための器を用意するだけです。この器の中で入学した学部生・院生

がどのように自己を育て、どのような看護職者として発展していくかは、一人一人の自覚と努力にかかっていると思います。看護の祖、フロレンス・ナイチンゲールは「人材は創り出されなければならない。どれほど類いまれな力量の持ち主であっても、これを三ヶ月、六ヶ月、あるいは十二ヶ月くらいではどうにもできるものではない。ゆるぎのない基礎を固めるには、根強い、熱意のこもった数年間が必要なのである。」と述べております。どうぞ、入学したことに満足するだけでなく、目標高くこの学舎で熱意をもって学び続けるそれぞれの数年間を大切にしたいと願っております。

教務委員長 川島 和代



オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは、7月20日(日)に実施されました。参加総数は235名で、その内訳は、学部希望者198名、大学院希望者6名、保護者等31名でした。北陸3県のみならず、他の地域からも参加がありました。多くの高校生で学内は賑わい、在学生の心強い協力も得て、盛況のうちに終了いたしました。

当日は、大学概要・入試情報の説明後、6つのテーマから参加者それぞれが選択した公開授業を受講していただきました。その後、参加者を2班に分け、本学の特徴であるフィールド実習と国際交流の紹介が行われました。また、教職員による個別相談、在学生との交流、学内施設の自由見学が行われました。いずれのコーナーでも活発な質疑応答がありましたが、とりわけ、在学生との交流コーナーでは、和やかな雰囲気の中、在学生が丁寧に大学生活を紹介し、積極的に参加者と交流を深めていました。

アンケートによる評価も概ね良好でした。参加者はこのオープンキャンパスを通して本学への理解を深められたと思います。一人でも多くの参加者に、本学への進学を志していただけることを期待しています。

広報委員 東 雅代



開学記念行事 まなびや 学舎と地域の連携を知る・考える

5月29日は本学の9回目の開学記念日でした。本年は「地域との連携」をキーワードに、かほく市在住の方々の支援を受けて「食」「遊」「環境」「文化」の4つの分科会による活動型の行事を開催しました。

開学記念日の朝、お天気は雨模様。天を仰いで、晴れてほしいと祈りながら、開会しました。まず、本学と地域とのつながりを再認識する目的で、思い出深い映像を駆使し、地域の協力を得て展開された授業、地域貢献活動などが紹介されました。

開始から1時間を過ぎた頃、ようやく雨もやみ、分科会の活動が開始となりました。「食」では大海西山公園付近を散策し、山菜や野草の種類と調理法を学び、参加者全員のおにぎり定食(豚汁、よもぎ団子つき)を作りました。「遊」では、かほく市高松グラウンド・ゴルフ場で、日本グラウンド・ゴルフ協会会員の方から競技方法を学び、プレイを楽しみました。「環境」では、かほく市職員の指導で海岸清掃を行い、環境保全の重要性を再認識しました。「文化」では、西田幾多郎哲学記念館の職員や高橋ふみの会メンバーも加わり、西田幾多郎と高橋ふみの生涯と思想についてのディスカッションを通し、郷土と文化のつながりを考えました。分科会での活動を終えて、参加者全員が学生食堂で、おにぎり定食に舌鼓をうちました。地域の人々との交流をとおした学生の笑顔が印象的な1日でした。この記念行事にご協力いただいた多くの方々に、あらためて感謝申し上げます。

開学以来、本学では地域と連携しながら、大学の歴史を刻んできました。多くの地域の方々の支援の手を背中に感じながら、発展していく大学でありたいと思います。今後とも、暖かいご支援をお願いいたします。

教授 丸岡 直子



「情報セキュリティ研修」とセキュリティポリシーについて

高度情報化時代において情報資産の安全性を維持することは、社会活動を健全に保つ上で不可欠である。本学の情報資産を守ることは、本学の教育・研究・地域貢献活動を円滑に推し進め、本学に対する社会的信頼を獲得する上で重大な要素となる。本学の情報セキュリティポリシーは、内閣府が策定したガイドライン、石川県情報セキュリティポリシーなどを基本とし、これに本学独自の状況を加味している。平成18年度より検討・作成がなされ、平成19年4月に承認された。

情報セキュリティ対策の一環として全教員を対象に「情報セキュリティ研修会」を年1回開催し、ポリシーの周知、情報セキュリティを確保するための啓発を行っている。

平成19年9月13日(木)は、初回のため県情報政策課からの説明とともに、ポリシーの総論的内容の理解を深めた。2年目の今年は6月12日(木)に、新任者を含む全職員へのポリシーの周知、確認の徹底を行った。主な研修内容は、本学情報セキュリティポリシーの概要、情報システム上の留意点、学生に対する情報セキュリティ教育、看護領域で問題になる情報セキュリティなどである。

情報セキュリティ委員長 大木 秀一

情報セキュリティ基本方針

高度情報化時代においては、情報資産の安全性を維持することは、社会活動を健全に保つ上で不可欠である。石川県立看護大学にとっても、情報資産を守ることは、本学の教育・研究・地域貢献活動を円滑に推し進め、本学に対する信頼を獲得する上で重大な要素となる。本学独自の教育・研究・地域貢献活動を妨げるような制約や制限を設けることは、避けなければならないが、安易なポリシーでは社会責任を全うできないことを十分に自覚する必要がある。したがって、本学の情報資産を利用するすべての者は、情報セキュリティポリシーを遵守する責任がある。

平成20年度 日系研修事業

平成20年度日系研修事業（高齢社会福祉におけるデイケアサービス:デイケアと介護予防、期間:6/20～8/26）として、南米パラグアイから4名の研修生を看護大学と羽咋市社会福祉協議会が連携して受け入れている。研修目的は、高齢者の健康な日常生活の自立を維持・支援するためのデイケアと介護予防の実践について学び、その機能をパラグアイの各地で実践しつつシステム化していくことである。この事業は昨年に引き続き2年目であり、昨年の研修生が既にそれぞれの地域で高齢者のデイサービス活動をスタートさせている。



今年の研修プログラムは看護大2年生との異文化交流の授業から始まり8回のレクチャーと、実習は住民参加型の介護予防推進事業の先駆的な地域である羽咋市で老人福祉センターの活動や地域のサロン・たまり場活動、デイサービスセンター、グループホーム等数多くの現場で高齢者に歓迎されながら貴重な体験を得た。今年の研修生は福井珠美さん、北川美香さん、若森アナ マリアさん、水本愛夏さんの4人で、68日間の研修を通して豊かな感性と温かく積極的な人間関係、旺盛な学習意欲に、母国パラグアイで待つ高齢者介護への意気込みがひしひしと伝わってきた。研修の成果がパラグアイの高齢者福祉への取り組みに貢献できるよう願ってやまない。

教授 天津 榮子

2008年度夏期アメリカ看護研修報告

今夏もワシントン大学（シアトル市）に看護研修に行っていました。今年度の研修参加者は、2年生が10名と3年生が7名の合計17名でした。アメリカでの滞在方法はホームステイです。初日だけ全員一緒にワシントン大学の学生寮に1泊しますが、それ以降は2～3人1組となり、それぞれのアメリカ人のご家庭にホームステイをさせていただきます。各自が安全確保に努めることができるように事前学習会やオリエンテーションを行います。今年から海外通話のできる携帯電話を自主的に持参する形を取り入れました。そのため昨年度よりも参加学生はより安心して研修に集中することができたのではないかと思います。今年新たに訪問した先は、オデッサ・ブラウン（Odessa Brown）とUWMC（University of Washington Medical Center）のsleepingの研究室と癌の研究室でした。訪問する各施設は、毎年、多忙の中、我々のために時間を割き、アメリカの医療制度や貧困者の医療提供のあり方などを熱心に説明していただきます。訪問施設のほとんどが寄付金で運営されていることを知った学生は、今年度から寄付金を集め、次期参加学生にそれを託す計画を検討し始めています。この企画が、本学の先輩から後輩へ、さらに本学とアメリカの看護師との交流へと繋がっていけばと願っています。



ハーバービュー・メディカル・センターで熱心に説明を聞く学生たち

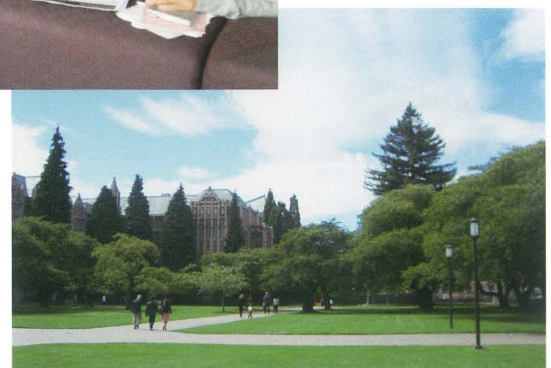
UWの看護学生との交流



"We can study anytime, anyplace!"

今年度の研修参加学生による報告会は、看護大祭の初日（10月25日）に開催される予定です。研修で学んできた有意義な内容は、参加していない方々に伝わるように工夫されており、興味のある方はもちろんのこと、興味の薄い方も積極的に参加され、刺激を受けていただきたいと思います。*****

UWキャンパス



参加教員 末弘 美樹

新任教職員紹介



大場みゆき 講師
(基礎看護学)

今年度4月から基礎看護学講座で、基礎看護方法論・基礎看護学実習を主として担当させていただきます。臨床看護師としてがんセンターや地域の診療所で、成人看護学の助手として短大での経験を経て、静岡県で約10年間基礎看護学の教育に携わりました。基礎看護技術は学生の意欲や手先の器用さで習得の速さに大きな違いが出るので、技術への指導を通してこうした面にどのように関わり、ポイントを伝えていったら良いのかを模索しています。技術教育と、臨床で主体的に行動できる看護師の育成を研究テーマとして、教育へ関心の高い石川の地で、新たな気持ちで取り組んでいきたいと考えています。またフィールド実習を始めとした実習での交流は、学生の成長や戸惑いを実感し、同じ目線で学び悩める場、大学内ではわからない地域の風土を理解できる場として大事にしていきたいと思っています。北陸の味覚も大いに楽しみたいと期待しています。どうぞよろしくお願い致します。



今磯 純子 講師
(地域看護学)

2008年4月より石川県に赴任させて頂きました今磯純子と申します。赴任前は、愛知県内における大学にて、地域看護学領域の助手として4年間お世話になり、勉強をさせて頂きました。

これまで関与しておりました地域看護学は、行政看護・在宅看護・産業看護・学校看護・国際保健の5分野を包括する領域でありました。その中で、様々なライフサイクル、健康レベルにある人々を対象として、地域で健康に生活できる看護職としてどのような役割を担い、そして他職種とどのように連携を図っていけばよいかについて探索させて頂くものでした。

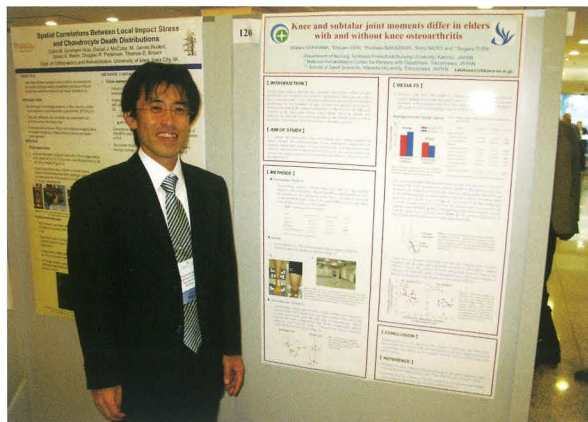
北陸地方に暮らすのは初めてですが、文化の香り高い、そして地域の方々の郷土愛あふれる石川県にご縁を頂きましたことを大切に、教職員の方々や学生の方々などとの関わりを通し、研鑽を重ねていけたらと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2008国際骨関節炎学会議に参加して

「骨関節炎」とは聞き慣れない言葉だと思いますが、この疾患によって寝たきりになる高齢者はきわめて多いことが知られています。今年の国際骨関節炎学会議は、9月18～21日の日程でイタリアのローマで行われました。参加者は約1000名にのぼり、観光地Romaも一役買ったためか例年以上に盛大に行われました。

この会議で私は、変形性膝関節症を患った高齢者の歩行を特殊なカメラを使って動作分析した結果について発表し、多くの助言を得ました。また、欧米の研究者のプレゼンテーション能力の高さに触れることもできました。スライドやポスターのデザインや構成は美しく、しかも明快に結果を報告しており、この経験を学生のみなさんに授業を通じて伝えたいと思います。実習や調査などで得られた成果をわかりやすく丁寧に説明する能力は、学生のうちにぜひ身につけてほしいと思います。

ちなみに、パスタとワインがとてもおいしかったことは、言うまでもありません。



准教授 垣花 渉

市バス看護大停留所設置

平成20年6月2日からかほく市営バスが本学に乗り入れることとなりましたので、利用してください。

バス停留所の場所は管理棟玄関の右横に設置しており、一日上下線とも5本が乗り入れています。ただし、日曜・祝日はバスの乗入れはありません。

看護大学に乗り入れしないバスも国道に設置してある「看護大学前」のバス停には停まります。

なお、時刻表を食堂、図書館、管理棟玄関及び学部事務室に掲示してあります。



キャンパスライフ

フィールド実習



1年 宮谷 祐未

私たちのグループは、将来看護職に就く上で必要不可欠である人と関わるということ、つまり「接遇」について学ぶため、お客様と様々な場面で接する機会の多いホテルを実習場所を選びました。実習のテーマや場所を設定するまでに多くの時間を費やし、みんなの意見を取り入れ、自分達が納得できるまで話し合いました。ホテルでの実習によってどのようなことを学べるのか、ホテルでの接遇と病院での接遇の共通点と相違点は何か、私達が学びたい事を学べるホテルはどこかなど、様々な観点から考えて自分達が実習を行うことの目的意識を高めて実習に臨みました。実際には自分達が考えていた通りのことが出来なかった部分もありましたが、効率よく仕事を進める方法やお客様の行動を予測して対応する技術を学ぶことができました。このような実習で得た経験を今後の学生生活に活かしていきたいと思います。

小児看護学実習Ⅰ



3年 笠原 尚江

私は小児看護学実習Ⅰで小学校へ行き、1年生（6～7歳児）を受け持ちました。私が受け持ったクラスは、まだ1年生のため落ち着きがない児童が複数名いるクラスでした。実習初日は楽しみであると同時に不安と緊張でいっぱいでした。初対面の人には不慣れた児童は、最初は乱暴な言葉がみられたり、授業中も動き回ることもありましたが、休み時間のときは授業とは違う楽しそうな表情を見せたり、日を追うごとに良い面も色々見えてきて毎日が新しい発見でした。個人の発達過程や特徴を観察して、個々の児童に合わせた関わりが大切だということを学ぶことが出来ました。

保健指導は「手をきれいにしよう！」をテーマに蛍光ランプを用いて手の洗い残しや汚れが落ちにくい箇所を指導しました。6歳児の理解力や知識に合わせた指導は言葉の使い方・表現の仕方に苦戦しましたが、興味を持ってもらうような授業の工夫が大切だということを学びました。

第Ⅵ段階実習



4年 曹路地 重蔵

地域・在宅看護学実習では、医療施設で接している患者ではなく、地域で生活する様々な発達段階にある人々や異なる健康レベルの方々に関わることができた。

地域看護学実習における私達のグループは、3～5歳児までを対象に虫歯予防の教育・指導を実践した。子どもたちに対して、歯磨きの大切さを理解してもらうために紙芝居を用いながら寸劇を行い、興味と関心を膨らませる工夫をした。子どもたちは、目を輝かせて見入っておりよい方向へ導くことができたと思う。また、他のグループは高齢者に対する転倒予防やリハビリテーション、高血圧予防の保健指導を担当した。地域の保健活動は、地域に生活する住民すべてが対象となるため、ひとつの方法ではなく、対象一人ひとりにあった方法を選択することの大切さを学んだ。

地域・在宅実習を通して、患者の入院中だけに焦点を当てるのではなく、患者の生活環境や将来の生活等、広い視点を持ってかかわれる看護師になりたいと思った。

サークル活動紹介

ソフトボールサークル

2年 吉田 早苗

私達ソフトボールサークルは今年の6月にできたばかりのサークルであり、現在は垣花、清末、青木先生の指導のもと1年生8人、2年生10人で週2回程度活動しています。ソフトボール経験の有無に関係なく男女ともにソフトボール好きな人が集まり、設備の整っている大学の広いグラウンドで、時にはまるで中学や高校の厳しい部活動のように、時には笑い声が飛び交ったりと和気あいあい練習に励んでいます。具体的な練習としては、キャッチボール、トスパッティング、ロングパッティング、フリーパッティング、ノックなどをおこなっています。

先日は顧問の垣花先生が所属しているチーム（高松病院）と初めて練習試合を行いました。4対3のスコアで惜しくも負けてしまいましたが、一人一人がソフトボールの楽しさや楽しさを知り、また地域の方々との交流も深まりました。今後は、近隣の中学校やクラブチームと練習試合をしながら、来年度に市内のリーグ戦参加を目指して活動したいと考えています。ソフトボール大好きっ子、みんな集まれ!!



大学祭のお知らせ

第9回看護大学祭

今年の大学祭は、10月の25日(土)、26日(日)9:30~17:00の日程で行われます。大学祭のスローガンは「Can!Go!Do!愛」です。具体的な内容は、スタンプラリー、子供の部屋、フリーマーケット、模擬店、抽選会など、ご年配の方から子どもまで楽しめるような企画を行います。また今年は「高松の家」という、高松に住んでいらっしゃる地域の方が育てた作物を販売するという企画を新たに提案して、地域の方々と学生とが交流を図ることも考えています。

また、今年はシンポジウムも開催する予定です。今年のシンポジウムはドキュメンタリー番組で放送された「余命1ヶ月の花嫁」の(故)長嶋千恵氏のパートナー、赤須太郎氏をお招きする予定で準備を進めています。シンポジウムでは「余命1ヶ月の花嫁」のVTRを上映しながら、生きることの素晴らしさや命の大切さなどについて参加者で議論することを考えています。また、学生からの質問に対して赤須太郎氏のお話を聞かせて頂くことも考えています。

大学祭に足を運んでくれたみなさんが「看護大の大学祭に来てよかった。」と思ってもらえるような大学祭にできるよう大学祭実行委員のみなんで力を合わせて頑張ります。

みなさんのご来場をお待ちしております。



日時：10月25日(土)～26日(日)
9:30～17:00
場所：石川県立看護大学



♡ 催し物 ♡

10月25日(土) 11:00～17:00

11:00～12:00 子どもダンス
15:00～15:30 スタンプラリー
16:00～17:00 before-after

10月26日(日) 10:30～17:00

10:30～11:00 合唱
11:30～12:00 NBS
12:30～13:00 スタンプラリー
13:30～14:00 ミニ運動会
14:15～15:30 ビンゴ大会
15:30～16:00 スタンプラリー
16:00～17:00 ミスコン

両日開催

- ・看護体験
- ・スタンプラリー
- ・縁日・お化け屋敷
- ・フリーマーケット
- ・模擬店 など

シンポジウム

10月25日(土)

講堂 12:00～14:30

講師 赤須太郎氏

「余命1ヶ月の花嫁」
～赤須太郎氏との対話～

入場無料

映画上映

10月26日(日)

午前の部 10時会場、10時15分開演

午後の部 13時会場、13時15分開演

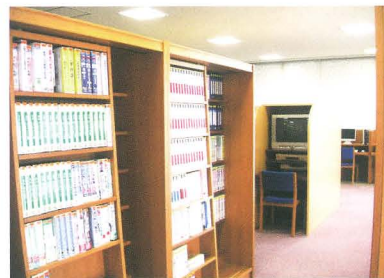
料金(前売り) 小学生以下：無料
小学生：100円
中・高・大学生：200円
大人：500円

図書館案内

当館の特殊コーナーについてご案内します。
ご利用については <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/> をご覧ください。

◇マルチメディアコーナー◇

- 2階フロアに、DVD・CD-ROM視聴用端末機4台と、ビデオブース9台があります。
- ご利用の際は、ヘッドフォンが必要です。1階カウンターでお申し出ください。
- 看護学、基礎医学を中心に、VHS:176点、DVD:270点、CD-ROM:147点が館内でご利用できます。なお、DVD及びCD-ROMの本体は図書館事務室に配架されておりますので、スタッフにお申し出ください。



☆「視聴覚資料リスト」につきましては、ホームページに掲載を予定しております。

地域ケア総合センターから

公開講座「地域の人たちと共に創る緩和ケア」のお知らせです。

講師 石垣 靖子 先生 (北海道医療大学 教授)
日時 11月8日(土) 10:00~12:00 会場は、本学講堂です。
一般県民および看護職等を対象とした講演です。

“がん”による痛みや苦しみのある方々、また人生の最後を迎えておられる患者さんやご家族の方々が不安で辛い時、「ホスピスや緩和ケア」がその人ひとり一人の価値ある時を過ごすことができるように援助いたします。辛い病気があっても幸せを感じる人生を送ることができる緩和ケアとはどんな方法でしょう。まず、地域の皆様が緩和ケアを理解し、協力してこの方法を広げていきましょう。この分野の第一人者である石垣 靖子先生のお話を聞いてください。昨年より始めました北陸3県の、本学を含む5大学が実施している「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」と「地域ケア総合センター」の共催で行います。



能登空港講義室にて

参加申込は、ホームページをご覧ください。地域ケア総合センター事務局までお問い合わせください。
「地域ケア総合センター」は、常に県民の皆様や看護職者を対象とした多数の独自の活動を行っています。

キャンパススケジュール 2008 年度後期

10月1日(水)	後期授業開始
10月1日(水)~10日(金)	後期履修登録受付
10月25日(土)・26日(日)	第9回看護大学祭

12月25日(木)~1月7日(水)	冬季休業(ただし、4年次生は12月25日(木)~1月6日(火))

2月25日(水)	入学試験(前期日程)

3月10日(火)~	春季休業
3月12日(木)	入学試験(後期日程)
3月14日(土) 予定	卒業式・学位授与式

編集後記

今回からIPNUキャンパスネットの編集は広報委員会で担当することになりました。

今後もますます充実した紙面を目指して、大学の出来事や学生の声など熱くお伝えしたいと思います。

よろしくお祈りします。(広報委員 曾根)

発行 ● 石川県立看護大学

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>
E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp